

IN THE UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

IN RE APPLICATION OF: Yasuhiro YAMANAKA

GAU:

SERIAL NO: New Application

EXAMINER:

FILED: Herewith

FOR: CASE

REQUEST FOR PRIORITY

COMMISSIONER FOR PATENTS
ALEXANDRIA, VIRGINIA 22313

SIR:

- ☐ Full benefit of the filing date of U.S. Application Serial Number _____, filed _____, is claimed pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §120.
- ☐ Full benefit of the filing date(s) of U.S. Provisional Application(s) is claimed pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §119(e):
Application No. _____ Date Filed _____
- ☒ Applicants claim any right to priority from any earlier filed applications to which they may be entitled pursuant to the provisions of 35 U.S.C. §119, as noted below.

In the matter of the above-identified application for patent, notice is hereby given that the applicants claim as priority:

<u>COUNTRY</u>	<u>APPLICATION NUMBER</u>	<u>MONTH/DAY/YEAR</u>
Japan	2002-222069	July 30, 2002

Certified copies of the corresponding Convention Application(s)

- ☒ are submitted herewith
- ☐ will be submitted prior to payment of the Final Fee
- ☐ were filed in prior application Serial No. _____ filed _____
- ☐ were submitted to the International Bureau in PCT Application Number _____
Receipt of the certified copies by the International Bureau in a timely manner under PCT Rule 17.1(a) has been acknowledged as evidenced by the attached PCT/IB/304.
- ☐ (A) Application Serial No.(s) were filed in prior application Serial No. _____ filed _____; and
- ☐ (B) Application Serial No.(s) _____
- ☐ are submitted herewith
- ☐ will be submitted prior to payment of the Final Fee

Respectfully Submitted,

OBLON, SPIVAK, McCLELLAND,
MAIER & NEUSTADT, P.C.


C. Irvin McClelland

Registration No. 21,124



22850

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出 願 年 月 日

Date of Application:

2002年 7月30日

出 願 番 号

Application Number:

特願2002-222069

[ST.10/C]:

[JP2002-222069]

出 願 人

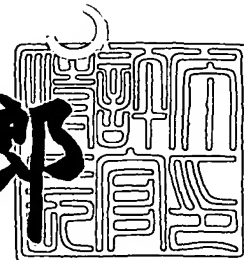
Applicant(s):

エム・エフ・ヴィ株式会社

2003年 6月26日

特 許 庁 長 官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田信一郎



出証番号 出証特2003-3050687

【書類名】 特許願

【整理番号】 PC-2002193

【提出日】 平成14年 7月30日

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 A45D 40/00

【請求項の数】 9

【発明者】

【住所又は居所】 大阪府東大阪市柏田本町 1 5 番 8 号 エム・エフ・ヴィ
株式会社内

【氏名】 山中 康弘

【特許出願人】

【識別番号】 000241625

【氏名又は名称】 エム・エフ・ヴィ株式会社

【代理人】

【識別番号】 100061745

【弁理士】

【氏名又は名称】 安田 敏雄

【電話番号】 06-6782-6917

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 001579

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【包括委任状番号】 0007138

【ブルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 収納容器

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 回転操作体（５）の回転操作により、受け台（４）を収納筒体（２）内で移動させるようにした収納容器において、

回転操作体（５）の回転操作によって回転操作体（５）に対して受け台（４）が離間するように移動することにより、回転操作体（５）側と受け台（４）側とが分離するように、回転操作体（５）側と受け台（４）側とが破断部（２４）を介して一体に形成されていることを特徴とする収納容器。

【請求項 2】 回転操作体（５）又は受け台（４）の一方に、ねじ軸（６）が突設され、他方に、ねじ軸（６）の外周に配置されるねじ脚（７）が設けられ、ねじ脚（７）にねじ軸（６）の雄ねじ（２６）に咬み合う雌ねじ（２７）が設けられ、

回転操作体（５）の回転操作により、ねじ軸（６）とねじ脚（７）とが相対回転して、ねじ軸（６）とねじ脚（７）とが収納筒体（２）内で相対移動することにより、受け台（４）が収納筒体（２）内を移動するように構成されていることを特徴とする請求項 1 に記載の収納容器。

【請求項 3】 前記ねじ脚（７）は、ねじ軸（６）の外周を取り囲むように複数個設けられ、受け台（４）、ねじ軸（６）及びねじ脚（７）を収納筒体（２）に収納することにより、各ねじ脚（７）の雌ねじ（２７）がねじ軸（６）の雄ねじ（２６）に咬み合うように、ねじ脚（７）がねじ軸（６）の外周に保持されるように構成されていることを特徴とする請求項 2 に記載の収納容器。

【請求項 4】 前記ねじ脚（７）が回転操作体（５）に突設され、ねじ軸（６）が受け台（４）に突設され、ねじ軸（６）が回転操作体（５）に破断部（２４）を介して破断可能に連結されていることを特徴とする請求項 2 に記載の収納容器。

【請求項 5】 前記ねじ軸（６）が回転操作体（５）に突設され、ねじ脚（７）が受け台（４）に突設され、ねじ軸（６）が受け台（４）に破断部（２４）を介して破断可能に連結されていることを特徴とする請求項 2 に記載の収納容器

【請求項 6】 前記受け台（４）と収納筒体（２）との間に、収納筒体（２）に対して受け台（４）を回転不能にする係止機構（２２）が設けられていることを特徴とする請求項 2 に記載の収納容器。

【請求項 7】 前記係止機構（２２）は、受け台（４）の外面又は収納筒体（２）の内面の一方に設けたガイド溝（２１）と、他方に設けたガイドリブ（１４）とを備えてなり、ねじ脚（７）を収納筒体（２）に対して回転不能に保持すべく、ガイドリブ（１４）がガイド溝（２１）に長手方向摺動自在に係合されていることを特徴とする請求項 6 に記載の収納容器。

【請求項 8】 前記ねじ脚（７）と収納筒体（２）との間に、収納筒体（２）に対してねじ脚（７）を回転不能にする回り止め機構（３０）が設けられていることを特徴とする請求項 4 に記載の収納容器。

【請求項 9】 前記回り止め機構（３０）は、ねじ脚（７）の外面又は収納筒体（２）の内面の一方に設けた係合凸部（２８）と、他方に設けた係止凹部（１２）とを備えてなり、ねじ脚（７）を収納筒体（２）に対して回転不能に保持すべく、係合凸部（２８）が係止凹部（２）に長手方向摺動自在に係合されていることを特徴とする請求項 8 に記載の収納容器。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、口紅やリップクリーム等の収納容器に関する。

【0002】

【従来の技術】

口紅やリップクリーム等を収納する収納容器には、図 18 に示すように、収納筒体 51 と、収納筒体 51 内に移動自在に収納保持された収納物 52 の受け台 53 と、収納筒体 51 に対して回転自在に保持された回転操作体 54 とを備え、回転操作体 54 にねじ軸 55 が突設され、受け台 53 がねじ軸 55 に螺合するねじ筒 56 が設けられ、回転操作体 54 の回転操作により、収納物 52 を保持した受け台 53 を収納筒体 51 内で移動させて、口紅やリップクリーム等の収納物 52

を収納筒体 5 1 から出退させるようにしたものがある（例えば実公昭 5 8 - 1 4 8 8 9 号公報）。

【0 0 0 3】

しかし、従来のこの種の収納容器は、回転操作体 5 4 側と、収納物 5 2 を保持する受け台 5 3 側とは別体に構成されており、このため収納容器の構成部材が多くなって、構成部材を形成する金型等も多く必要になり、収納容器の製造費用が高く付いた。また、別体に構成した回転操作体 5 4 側と受け台 5 3 側とを収納筒体 5 1 に対してそれぞれ別々に組み込む必要があり、構成部材の組み込みも煩雑になった。

そこで、図 1 8 に示すように、回転操作体 5 4 側と受け台 5 3 側とを、複数の折れ線を介して伸縮調整自在に折り重ねられる連結体 5 9 で一体に連結するようにし、これにより回転操作体 5 4 側と受け台 5 3 側とを一体に成形できるようにしたものがある（特開 2 0 0 1 - 1 2 8 7 3 3）。

【0 0 0 4】

しかし、この場合、回転操作体 5 4 の回転が良好に受け台 5 3 に伝達されなくなり、回転操作体 5 4 の回転操作によって、受け台 5 3 が収納筒体 5 1 をスムーズに移動することができず、受け台 5 3 に保持した収納物 5 2 を収納筒体 5 1 からスムーズに出退させることができなくなるという問題があった。

【0 0 0 5】

【発明が解決しようとする課題】

本発明は上記問題点に鑑み、回転操作体の回転操作によって、収納筒体から収納物をスムーズに出退させることができると共に、収納容器の構成部材を少なくして、製造費用を安価になし得ると同時に、収納筒体に対する回転操作体及び受け台等の組み込みを簡単になし得るようにしたものである。

【0 0 0 6】

【課題を解決するための手段】

この技術的課題を解決するための本発明の技術的手段は、回転操作体 5 の回転操作により、受け台 4 を収納筒体 2 内で移動させるようにした収納容器において

回転操作体 5 の回転操作によって回転操作体 5 に対して受け台 4 が離間するように移動することにより、回転操作体 5 側と受け台 4 側とが分離するように、回転操作体 5 側と受け台 4 側とが破断部 2 4 を介して一体に形成されている点にある。

【0 0 0 7】

この場合、例えば、回転操作体 5 の回転操作により、収納物 3 を保持した受け台 4 を収納筒体 2 内で移動させて収納物 3 を収納筒体 2 から出退させるようにした収納容器において、

回転操作体 5 の回転操作によって回転操作体 5 に対して受け台 4 が離間するように移動することにより、回転操作体 5 側と受け台 4 側とが分離するように、回転操作体 5 側と受け台 4 側とが破断部 2 4 を介して一体に形成されていてもよい。

【0 0 0 8】

また、本発明の他の技術的手段は、回転操作体 5 又は受け台 4 の一方に、ねじ軸 6 が突設され、他方に、ねじ軸 6 の外周に配置されるねじ脚 7 が設けられ、ねじ脚 7 にねじ軸 6 の雄ねじ 2 6 に咬み合う雌ねじ 2 7 が設けられ、

回転操作体 5 の回転操作により、ねじ軸 6 とねじ脚 7 とが相対回転して、ねじ軸 6 とねじ脚 7 とが収納筒体 2 内で相対移動することにより、受け台 4 が収納筒体 2 内を移動するように構成されている点にある。

また、本発明の他の技術的手段は、前記ねじ脚 7 は、ねじ軸 6 の外周を取り囲むように複数個設けられ、受け台 4、ねじ軸 6 及びねじ脚 7 を収納筒体 2 に収納することにより、各ねじ脚 7 の雌ねじ 2 7 がねじ軸 6 の雄ねじ 2 6 に咬み合うように、ねじ脚 7 がねじ軸 6 の外周に保持されるように構成されている点にある。

【0 0 0 9】

また、本発明の他の技術的手段は、前記ねじ脚 7 が回転操作体 5 に突設され、ねじ軸 6 が受け台 4 に突設され、ねじ軸 6 が回転操作体 5 に破断部 2 4 を介して破断可能に連結されている点にある。

また、本発明の他の技術的手段は、前記ねじ軸 6 が回転操作体 5 に突設され、ねじ脚 7 が受け台 4 に突設され、ねじ軸 6 が受け台 4 に破断部 2 4 を介して破断

可能に連結されている点にある。

また、本発明の他の技術的手段は、前記受け台 4 と収納筒体 2 との間に、収納筒体 2 に対して受け台 4 を回転不能にする係止機構 2 2 が設けられている点にある。

【0 0 1 0】

また、本発明の他の技術的手段は、前記係止機構 2 2 は、受け台 4 の外面又は収納筒体 2 の内面の一方に設けたガイド溝 2 1 と、他方に設けたガイドリブ 1 4 とを備えてなり、ねじ脚 7 を収納筒体 2 に対して回転不能に保持すべく、ガイドリブ 1 4 がガイド溝 2 1 に長手方向摺動自在に係合されている点にある。

また、本発明の他の技術的手段は、前記ねじ脚 7 と収納筒体 2 との間に、収納筒体 2 に対してねじ脚 7 を回転不能にする回り止め機構 3 0 が設けられている点にある。

【0 0 1 1】

また、本発明の他の技術的手段は、前記回り止め機構 3 0 は、ねじ脚 7 の外面又は収納筒体 2 の内面の一方に設けた係合凸部 2 8 と、他方に設けた係止凹部 1 2 とを備えてなり、ねじ脚 7 を収納筒体 2 に対して回転不能に保持すべく、係合凸部 2 8 が係止凹部 2 に長手方向摺動自在に係合されている点にある。

【0 0 1 2】

【発明の実施の形態】

以下、本発明を図示の実施の形態に従って説明する。

図 1 ～図 1 4 において、1 は口紅やリップクリーム等を収納するの収納容器で、収納筒体 2 と、収納物 3 を保持する受け台 4 と、回転操作体 5 と、ねじ軸 6 と、一对のねじ脚 7 と、キャップ 8 とを備える。これら収納筒体 2、受け台 4、回転操作体 5、ねじ軸 6、一对のねじ脚 7 及びキャップ 8 は、硬質の合成樹脂等により構成されている。

【0 0 1 3】

収納筒体 2 は円筒状に形成され、基部の内周面に環状の抜け止め凹部 1 1 が設けられ、収納筒体 2 の基部側の内周面に、軸方向の係止凹部 1 2 が、周方向に等間隔をおいて 4 個（又は径方向に対応して 2 個）形成されている。各係止凹部 1

2は環状の抜け止め凹部11から収納筒体2の軸方向中央に亘っている。

収納筒体2の内周面に、凸状となった軸方向のガイドリブ14が、周方向に等間隔をおいて4個形成されている。ガイドリブ14は、収納筒体2の周方向において各係止凹部12の中間位置に配置されている。収納筒体2の先端側に、小径になったキャップ装着部15が設けられると共に、先端開口16が設けられている。

【0014】

回転操作体5は、大径の操作部17と小径の嵌合部18とを有する有底円筒状に形成され、嵌合部18に環状の抜け止め凸部19が突設されている。回転操作体5の嵌合部18は収納筒体2の基端部に内嵌され、抜け止め凸部19が収納筒体2の抜け止め凹部11に係合され、これにより、回転操作体15は、操作部17が収納筒体1の基端から外方突出した状態になって、収納筒体1に軸心回り回転自在に保持されている。

受け台4は有底円筒状に形成され、受け台4の外周面に軸方向のガイド溝21が周方向に等間隔をおいて4個形成されている。受け台4は、収納筒体1に内嵌されると共に、収納筒体1のガイドリブ14が受け台4のガイド溝21に係合されることにより、収納筒体1に軸方向摺動自在に保持され、収納筒体1のガイドリブ14と受け台4のガイド溝21とにより、収納筒体1に対して受け台4を回転不能にする係止機構22が構成されている。

【0015】

回転操作体5にねじ軸6が突設され、受け台4に一对のねじ脚7が突設されている。ねじ軸6は受け台4に細い破断部（連結部）24を介して破断可能に連結されている。破断部24は、受け台4側（又はねじ軸6側）に向かうほど細く形成されて、破断が生じ易くなっている。而して、前記回転操作体5、受け台4、ねじ軸6及び一对のねじ脚7は一体に成形されている。

前記一对のねじ脚7は、ねじ軸6の外周を取り囲むように受け台4から回転操作体5側に向けて末広がり状に傾斜して突出され、ねじ脚7の先端側に、ねじ軸6の雄ねじ26に咬み合う雌ねじ（内ねじ）27が設けられている。一对のねじ脚7の外面に、長手方向の係合凸部28が設けられている。ねじ脚7の基部に、

ねじ軸 6 に接近する方向に弾性変形し易くなるように肉薄に形成してなる弾性変形部 2 9 が設けられている。

【 0 0 1 6 】

受け台 4、ねじ軸 6 及びねじ脚 7 を収納筒体 1 に収納することにより、一对のねじ脚 7 は、弾性変形部 2 9 で弾性変形することにより、収納筒体 1 の内周面によりねじ軸 6 に接近するように径方向に内方に押し縮められて、一对のねじ脚 7 がねじ軸 6 の外周に近接保持され、各ねじ脚 7 の雌ねじ 2 7 がねじ軸 6 の雄ねじ 2 6 に咬み合うようになっている。また、一对のねじ脚 7 の係合凸部 2 8 が、収納筒体 1 の 4 個の係止凹部 1 2 のうちの径方向に対応する 2 個の係止凹部 1 2 に、長手方向摺動自在に係合される。従って、係合凸部 2 8 と係止凹部 1 2 とにより、ねじ脚 7 を収納筒体 1 に対して回転不能にする回り止め機構 3 0 が構成されている。

【 0 0 1 7 】

前記ねじ軸 6 の受け台 4 側の端部にはストッパー 3 2 が設けられている。このストッパー 3 2 にねじ脚 7 の雌ねじ 2 7 が接当することにより、雌ねじ 2 7 がねじ軸 6 から抜けないようにすると共に、受け台 4 の先端開口 1 6 側への移動をここで規制している。なお、このストッパー 3 2 は省略してもよい。

キャップ 8 は収納筒体 2 のキャップ装着部 1 5 に着脱自在に嵌合され、収納筒体 1 の先端開口 1 6 を塞ぐようになっている。

上記実施の形態によれば、収納容器 1 を製造する場合、収納筒体 2 及びキャップ 8 を別個に製造すると共に、回転操作体 5、受け台 4、ねじ軸 6 及び一对のねじ脚 7 を一体に成形する。

【 0 0 1 8 】

次に、受け台 4 に収納物 3 を外方突出状に保持した後、収納筒体 2 に対して一体成形した回転操作体 5 等を回動して、ガイドリブ 1 4 とガイド溝 2 1 とを一致させると共に、係合凸部 2 8 と係止凹部 1 2 とを一致させながら、図 2 に示すように、一体成形した回転操作体 5、受け台 4、ねじ軸 6 及び一对のねじ脚 7 を、収納筒体 2 にその基端側から挿入する。

すると、図 2 に示すように、収納筒体 2 の抜け止め凹部 1 1 に回転操作体 5 の

抜け止め凸部 1 9 に係合し、収納筒体 2 のガイドリブ 1 4 と受け台 4 のガイド溝 2 1 とが係合し、収納筒体 2 の係止凹部 1 2 とねじ脚 7 の係合凸部 2 8 とが係合した状態になる。また、一对のねじ脚 7 がねじ軸 6 の外周に近接保持されて、各ねじ脚 7 の雌ねじ 2 7 がねじ軸 6 の雄ねじ 2 6 に咬み合う。

【 0 0 1 9 】

その後、回動操作体 5 を軸心回りに a 方向に回動操作すると、回転操作体 5 と共にねじ軸 6 が a 方向に回動し、このとき、ガイドリブ 1 4 とガイド溝 2 1 との係合により、受け台 4 が収納筒体 2 に対して回り止めされ、係止凹部 1 2 と係合凸部 2 8 との係合により、ねじ脚 7 が収納筒体 2 に対して回り止めされているので、ねじ脚 7 及び受け台 4 は回動することができず、ねじ軸 6 の回転により、ねじ脚 7 及び受け台 4 が収納筒体 2 の先端側に向けて移動する。

その結果、図 1 1 及び図 1 4 に示すように、受け台 4 がねじ軸 6 に対して離間するため、ねじ軸 6 と受け台 4 とが破断部 2 4 で破断されて、受け台 4 及びねじ脚 7 と、回転操作体 5 及びねじ軸 6 とが分離し、回転操作体 5 の回動操作によって、収納物 3 が先端開口 1 6 から出退するように、受け台 4 及びねじ脚 7 が収納筒体 2 内を軸方向に摺動する。

【 0 0 2 0 】

従って、受け台 4、ねじ脚 7、回転操作体 5 及びねじ軸 6 が 1 つの構成部材となるため、収納容器 1 の構成部材が少なくなり、このため、構成部材を形成する金型等が少なく済み、収納容器 1 の製造費用が安上がりになる。また、一体に構成した回転操作体 5 側と受け台 4 側とを収納筒体 2 に対して一体に組み込むことができ、構成部材の組み込みも非常に簡単になる。

しかも、ねじ脚 7 は係合機構 2 2 により回り止めされ、受け台 4 は回り止め機構 3 0 により回り止めされているため、回転操作体 5 の回転がスムーズに受け台 4 に伝達されて、回転操作体 5 の回転操作によって、受け台 4 を収納筒体 2 に対してガタ付くおそれなく軸方向に摺動させて、収納物 3 を収納筒体 2 から良好に出退させることができる。

【 0 0 2 1 】

従って、回転操作体 5 の回転操作によって、収納筒体 2 から収納物 3 をスムー

ズに出退させることができると共に、収納容器 1 の構成部材を少なくして、製造費用を安価になし得ると同時に、収納筒体 2 に対する回転操作体 5 及び受け台 4 等の組み込みを簡単になし得るようになる。また、運搬等の際には、受け台 4、ねじ脚 7、回転操作体 5 及びねじ軸 6 が一体のものとして、収納筒体 2 に保持され、しかも、ねじ脚 7 が弾性変形により縮められた状態で保持されるので、収納容器 1 が大きな振動等を受けても、受け台 4、ねじ脚 7、回転操作体 5 及びねじ軸 6 が収納筒体 2 内でガタ付いたりすることがなく、このため、回転操作体 5 が回転操作されない限り、破断部 24 が不測に破断するおそれがなく、バージン性を確実に保持することができ、運送乃至保管等にも便利である。

【 0 0 2 2 】

図 1 5 は他の実施形態を示し、ねじ脚 7 が回転操作体 2 に突設され、ねじ軸 6 が受け台 4 に突設され、ねじ軸 6 が回転操作体 5 に破断部 24 を介して破断可能に連結され、回転操作体 5、受け台 4、ねじ軸 6 及び一对のねじ脚 7 は一体に成形されている。その他の点は前記実施の形態の場合と同様の構成であり、前記実施の形態の場合と同様に、回転操作体 5 の回転操作によって、収納筒体 2 から収納物 3 をスムーズに出退させることができると共に、収納容器 1 の構成部材を少なくして、製造費用を安価になし得ると同時に、収納筒体 2 に対する回転操作体 5 及び受け台 4 等の組み込みを簡単になし得る。なお、この場合、一对のねじ脚 7 は回転操作体 5 と共に収納筒体 2 に対して回転するため、収納筒体 2 とねじ脚 7 との間には回り止め機構 30 は不要になるので、ねじ脚 7 の係合凸部 28 及び収納筒体 2 の係止凹部 12 は省略される。

【 0 0 2 3 】

図 1 6 は他の実施形態を示し、ねじ軸 6 にその先端側（受け台 4 側）のみに雄ねじ 26 を設け、ねじ脚 7 の内面に、長手方向の略全長に亘って多数の雌ねじ（ネジリブ）27 を設けるようにしたものである（ウォーム、ラック式）。その他の点は前記実施の形態の場合と同様の構成である。

図 1 7 は他の実施形態を示し、一对のねじ脚 7 を受け台 4 の側面から一体に突設するようにしたものである。その他の点は前記実施の形態の場合と同様の構成である。

【 0 0 2 4 】

なお、前記実施の形態では、収納筒体 2 に対して受け台 4 を回転不能にする係止機構 2 2 を、受け台 4 の外面に設けたガイド溝 2 1 と、収納筒体 2 の内周面に設けたガイドリブ 1 4 とにより構成しているが、これに代え、受け台 4 の外面にガイドリブ 1 4 を設け、収納筒体 2 の内周面にガイド溝 2 1 を設け、これらガイド溝 2 1 とガイドリブ 1 4 とにより、収納筒体 2 に対して受け台 4 を回転不能にする係止機構 2 2 を構成するようにしてもよい。また、収納筒体 2 を円筒形状に代えて楕円の筒状或いは角筒状に形成すると共に、受け台 4 を収納筒体 2 に対応する楕円或いは角形状に形成して、受け台 4 を収納筒体 2 に対して回転不能に内嵌するようにし、これにより、受け台 4 の外面又は収納筒体 2 の内周面に設けたガイド溝 2 1 とガイドリブ 1 4 とを省略するようにしてもよい。

【 0 0 2 5 】

また、前記実施の形態では、収納筒体 2 に対してねじ脚 7 を回転不能にする回り止め機構 3 0 を、ねじ脚 7 の外面に設けた係合凸部 2 8 と、収納筒体 2 の内面に設けた係止凹部 1 2 とにより構成しているが、これに代え、ねじ脚 7 の外面に係止凹部 1 2 を設け、収納筒体 2 の内面に係合凸部 2 8 を設け、これら係止凹部 1 2 及び係合凸部 2 8 により、収納筒体 2 に対してねじ脚 7 を回転不能にする回り止め機構 3 0 を構成するようにしてもよい。

また、前記実施の形態では、受け台 4 と収納筒体 2 との間に、収納筒体 2 に対して受け台 4 を回転不能にする係止機構 2 2 を設け、ねじ脚 7 と収納筒体 2 との間に、収納筒体 2 に対してねじ脚 7 を回転不能にする回り止め機構 3 0 を設けているが、これに代え、係止機構 2 2 又は回り止め機構 3 0 の一方を省略するようにしてもよい。

【 0 0 2 6 】

また、前記実施の形態では、回転操作体 5 又は受け台 4 に、ねじ軸 6 の外周に配置されるねじ脚 7 が一対設けられているが、設けるねじ脚 7 は 2 個に限定されず、1 個であってもよいし、3 個以上であってもよい。

また、前記実施の形態では、受け台 4 を有底円筒状に形成しているが、受け台 4 の形状はこれに限定されず、皿状その他の形状であってもよいことは勿論であ

る。

【 0 0 2 7 】

【発明の効果】

本発明によれば、回転操作体 5 の回転操作によって、収納筒体 2 から収納物 3 をスムーズに出退させることができると共に、収納容器 1 の構成部材を少なくして、製造費用を安価になし得ると同時に、収納筒体 2 に対する回転操作体 5 及び受け台 4 等の組み込みを簡単になし得るようになる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の一実施の形態を示す分解斜視図である。

【図 2】

同側断面図である。

【図 3】

同収納筒体の側断面図である。

【図 4】

同回転操作体及び受け台等の一体成形品の半欠側断面図である。

【図 5】

同収納筒体の底面図である。

【図 6】

同図 4 の A - A 線矢視図である。

【図 7】

同図 4 の B - B 線矢視図である。

【図 8】

同図 4 の C - C 線断面図である。

【図 9】

同ねじ脚の側面図である。

【図 1 0】

同図 9 の D - D 線断面図である。

【図 1 1】

同回転操作体及び受け台等の一体成形品を収納筒体に組み込む工程を示す側断面図である。

【図 1 2】

同図 1 1 の E - E 線矢視図である。

【図 1 3】

同図 1 1 の F - F 線断面図である。

【図 1 4】

同回転操作体及び受け台等の一体成形品を収納筒体に組み込む工程を示す斜視図である。

【図 1 5】

他の実施形態を示す回転操作体及び受け台等の一体成形品を示す半欠側断面図である。

【図 1 6】

他の実施形態を示す回転操作体及び受け台等の一体成形品を示す半欠側断面図である。

【図 1 7】

他の実施形態を示す回転操作体及び受け台等の一体成形品を示す半欠側断面図である。

【図 1 8】

従来例を示す側断面図である。

【図 1 9】

他の従来例を示す斜視図である。

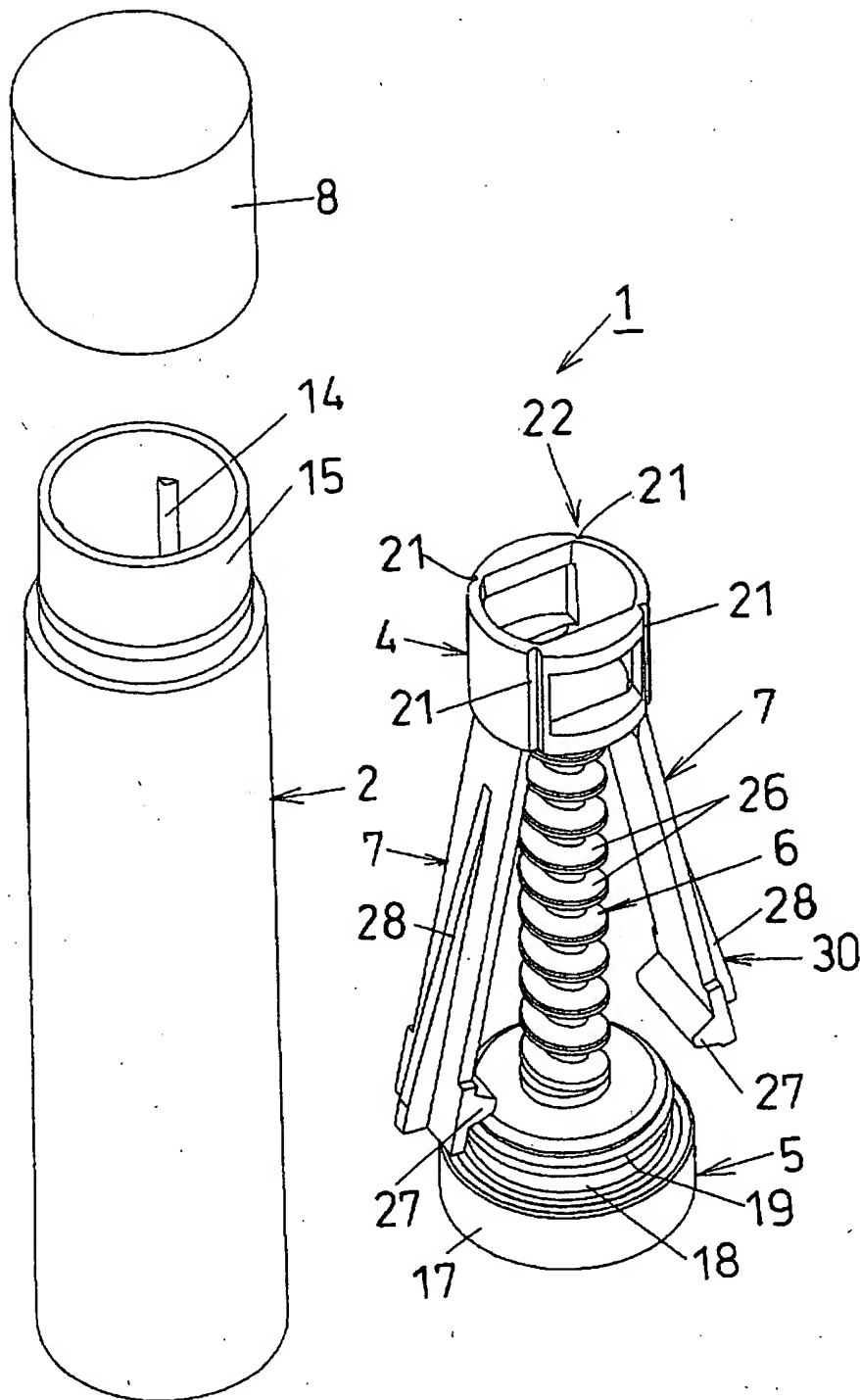
【符号の説明】

- 1 収納容器
- 2 収納筒体
- 3 収納物
- 4 受け台
- 5 回転操作体
- 7 ねじ脚

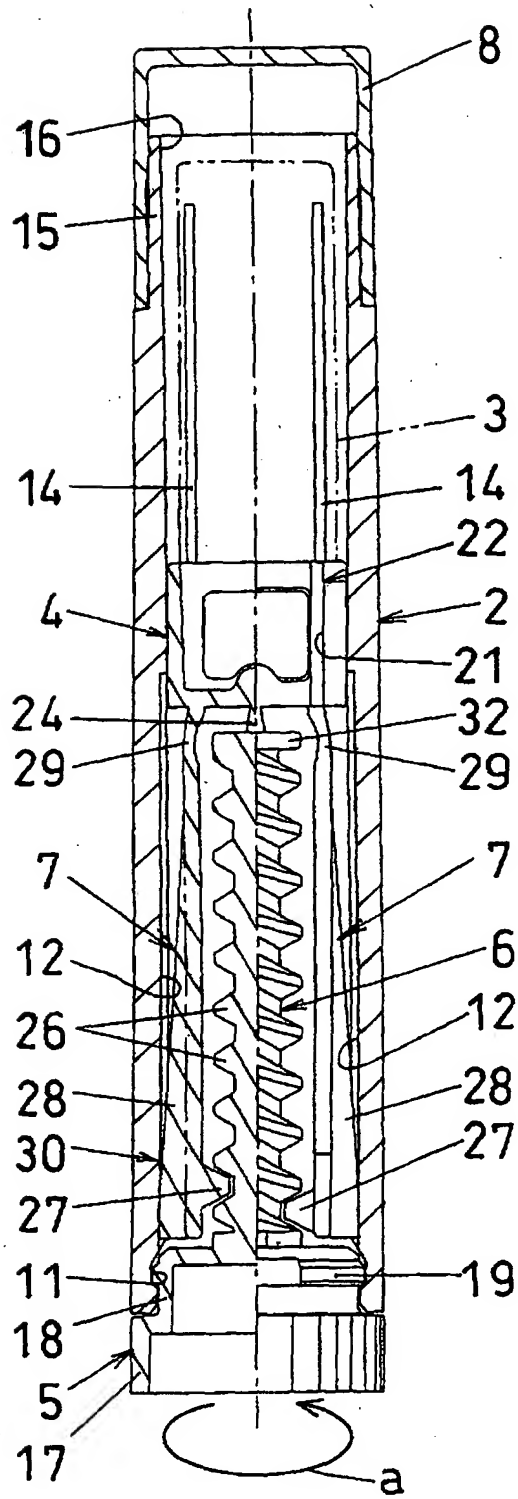
- 1 2 係止凹部
- 1 4 ガイドリブ
- 2 1 ガイド溝
- 2 2 係止機構
- 2 4 破断部
- 2 6 雄ねじ
- 2 7 雌ねじ
- 2 8 係合凸部
- 3 0 回り止め機構

【書類名】 図面

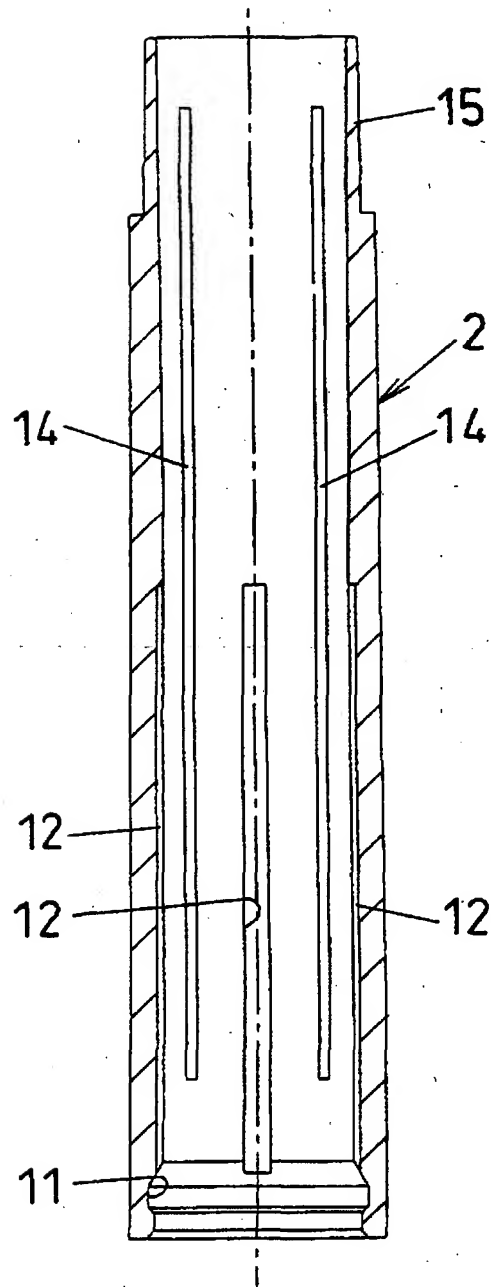
【図1】



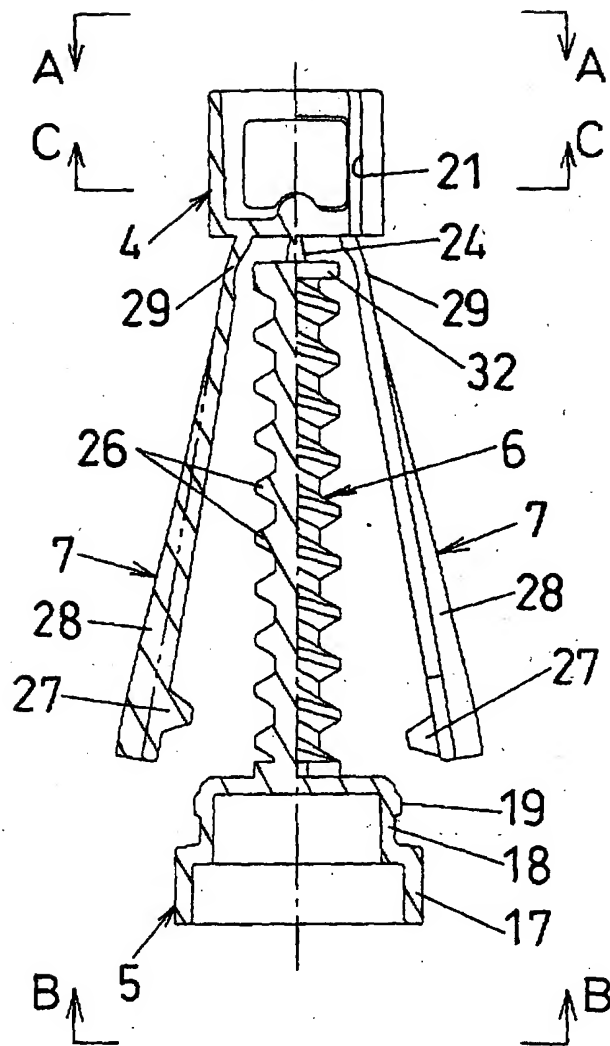
【図 2】



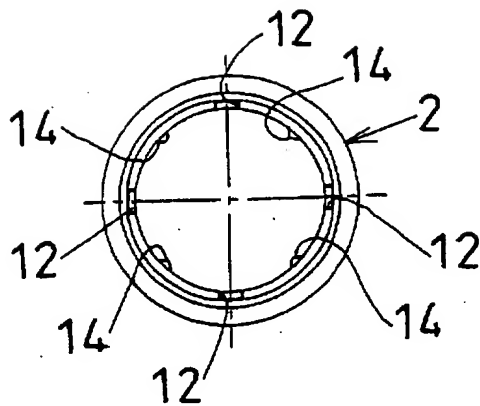
【図3】



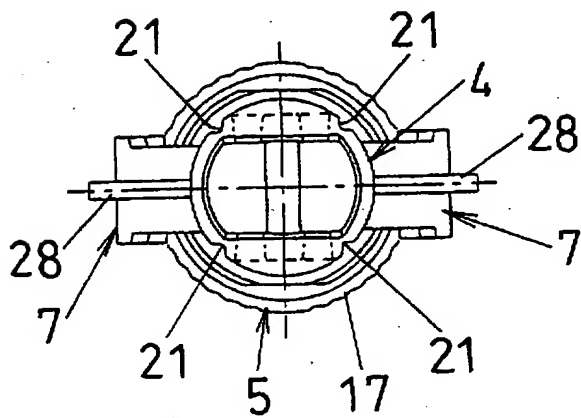
【図4】



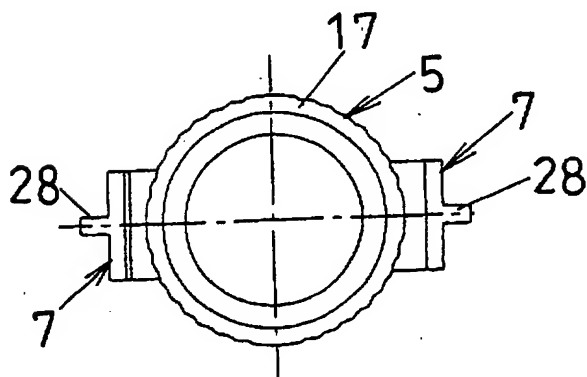
【図 5】



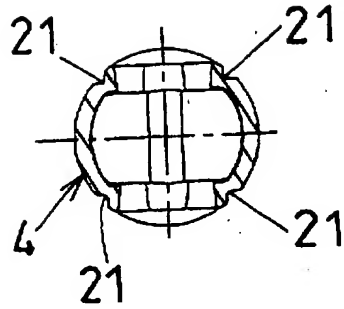
【図 6】



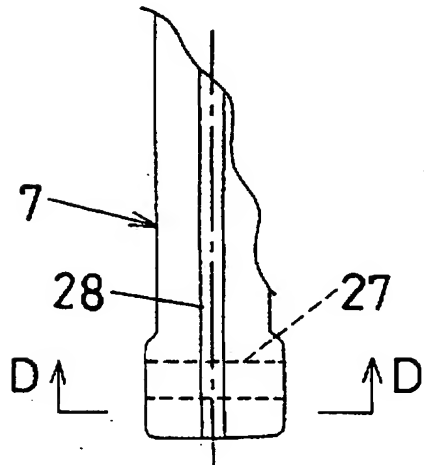
【図 7】



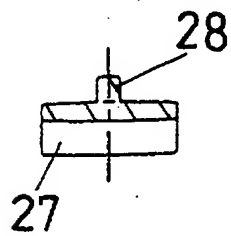
【図 8】



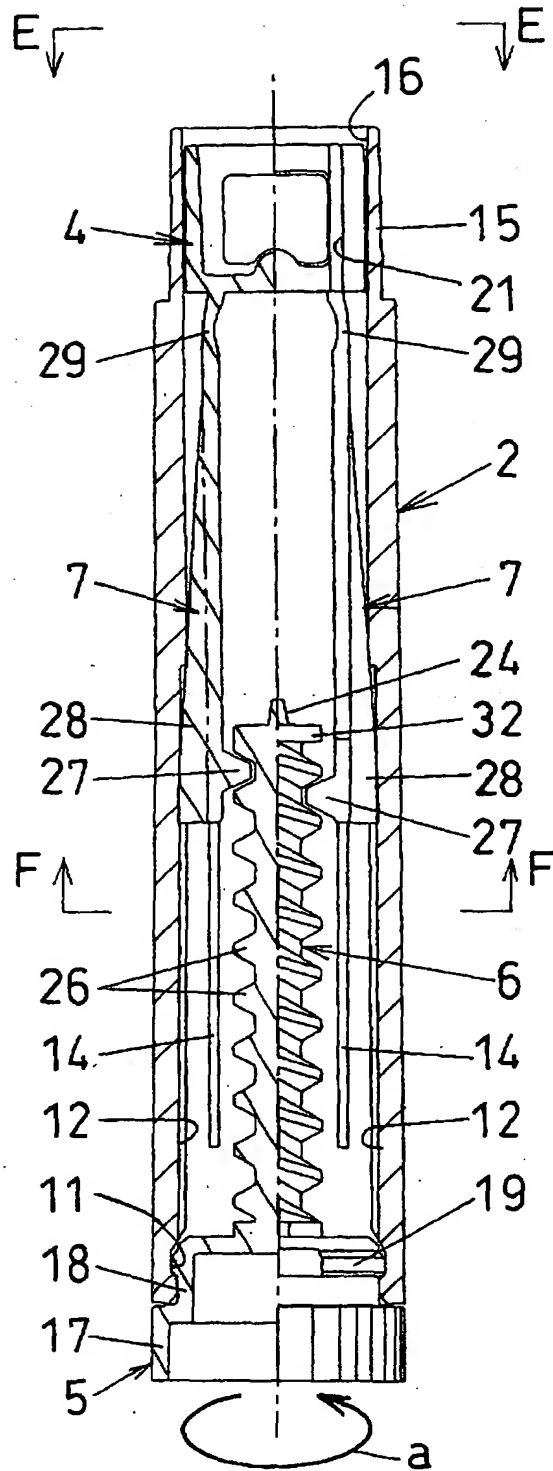
【図 9】



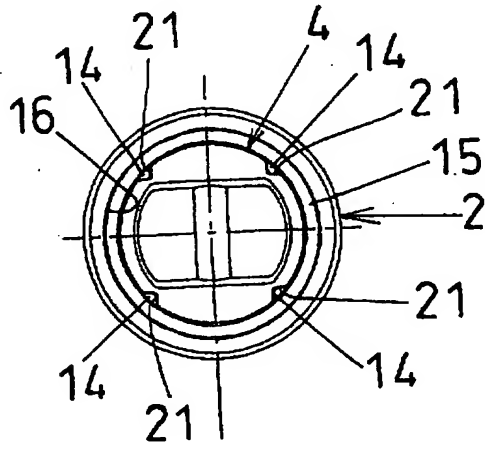
【図 10】



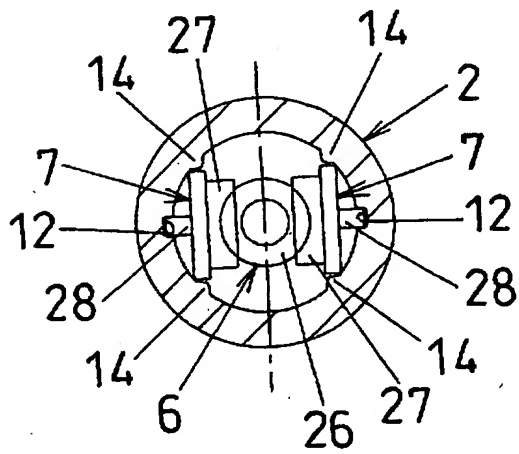
【図11】



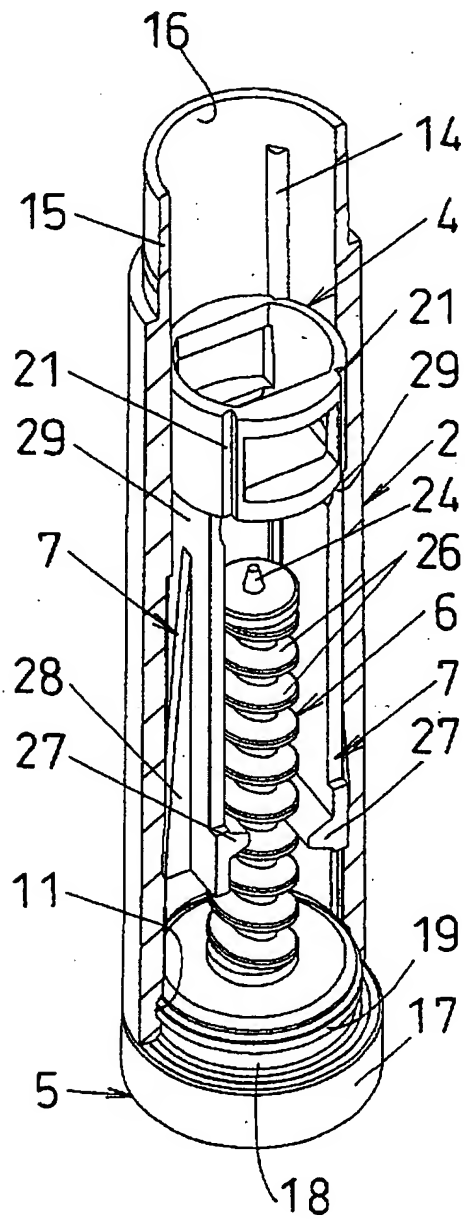
【図 12】



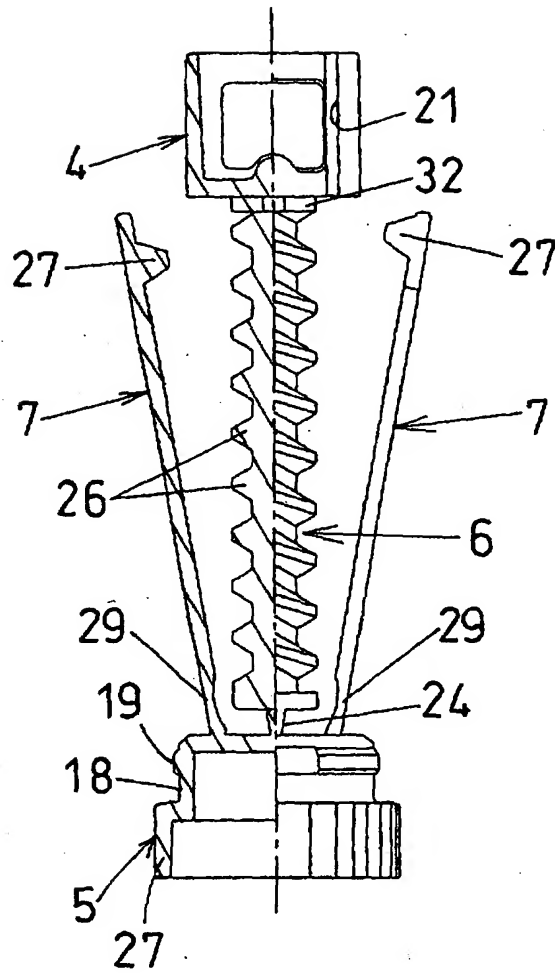
【図 13】



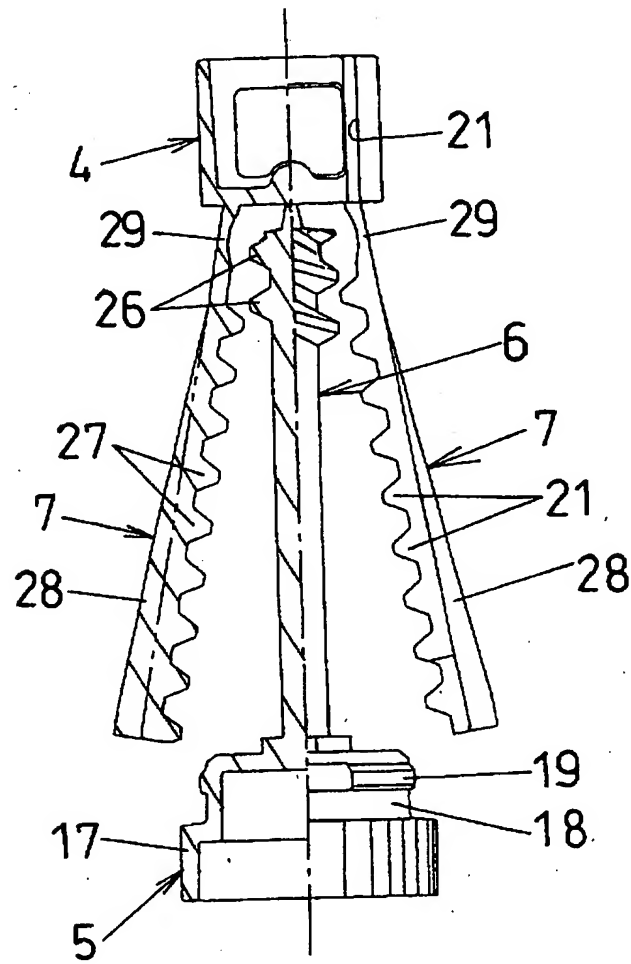
【図 14】



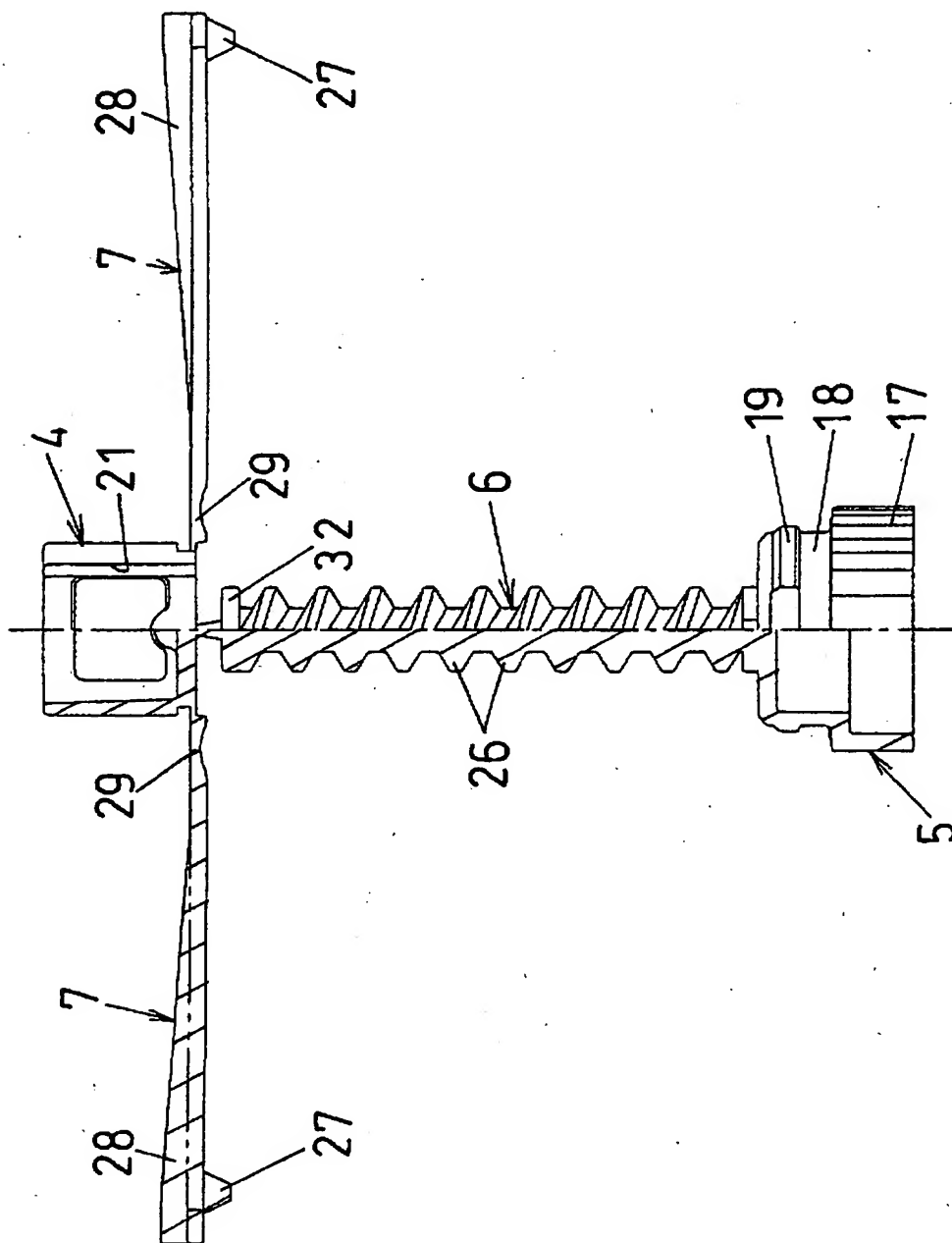
【図15】



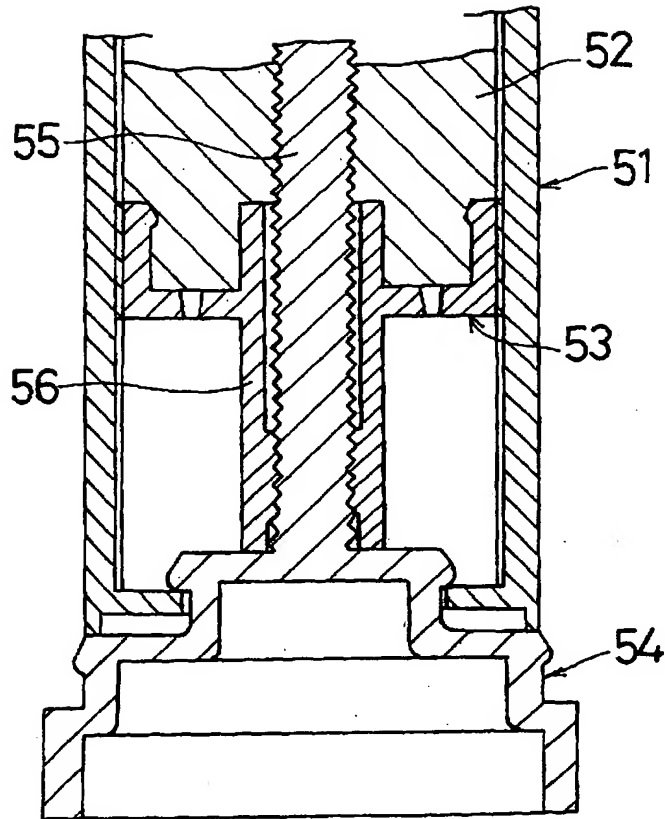
【図16】



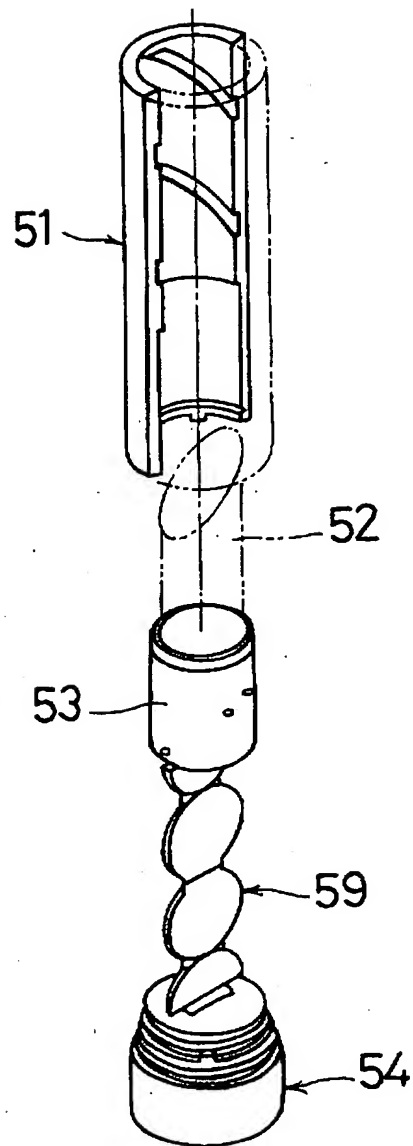
【図 17】



【図18】



【図19】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 回転操作体の回転操作によって、収納筒体から収納物をスムーズに出退させることができると共に、収納容器の構成部材を少なくして、製造費用を安価にし得ると同時に、収納筒体に対する回転操作体及び受け台等の組み込みを簡単にし得るようにする。

【解決手段】 回転操作体 5 の回転操作により、収納物 3 を保持した受け台 4 を収納筒体 2 内で移動させて収納物 3 を収納筒体 2 から出退させるようにした収納容器において、回転操作体 2 の回転操作によって回転操作体 5 に対して受け台 4 が離間するように移動することにより、回転操作体 5 側と受け台 4 側とが分離するように、回転操作体 5 側と受け台 4 側とが破断部 2 4 を介して一体に形成されている。

【選択図】 図 2

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000241625]

1. 変更年月日	2000年 5月10日
[変更理由]	名称変更
住 所	大阪府東大阪市柏田本町15番8号
氏 名	エム・エフ・ヴィ株式会社